【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】令和5年7月20日(2023.7.20)

【公開番号】特開2022-84121(P2022-84121A)
【公開日】令和4年6月7日(2022.6.7)
【年通号数】公開公報(特許)2022-101
【出願番号】特願2020-195779(P2020-195779)
【国際特許分類】
Ｂ４１Ｊ 11/02(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ４１Ｊ 11/02

【手続補正書】
【提出日】令和5年7月11日(2023.7.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
媒体幅の異なる描画媒体に対して描画ヘッドにより描画を行うインクジェットプリンタにおいて、
前記描画媒体が搬送されるプラテンに設けた複数の吸気穴に対して、前記描画媒体の両外側に位置する吸気穴を前記プラテン上方から塞ぐ一対のフィルム状の用紙押えと、
前記描画媒体の幅方向に移動可能とし、前記吸気穴の一部を前記プラテン下方から塞ぐ前記描画媒体の搬送方向に長尺状となる一対の穴塞ぎ部材と、
前記幅方向への位置調整移動を可能なように前記用紙押えを支持する支持部と、
前記支持部の前記幅方向の移動に連動し、前記穴塞ぎ部材の幅方向の移動による位置調整を行うリンク機構と、
を具備することを特徴とするインクジェットプリンタ。
【請求項２】
前記支持部は、前記搬送方向に沿った軸に対して回動可能となる開閉機構を有する請求項１に記載のインクジェットプリンタ。
【請求項３】
前記開閉機構は、前記支持部側に固定され球面部を有する球面軸受けと、前記球面部に嵌合する球面体と、を備えた請求項２に記載のインクジェットプリンタ。
【請求項４】
前記用紙押えの内側端の搬送方向に間隔を空けて段片部を設けた請求項１に記載のインクジェットプリンタ。
【請求項５】
前記段片部の設置部下部の前記穴塞ぎ部材に溝部を設けた請求項４に記載のインクジェットプリンタ。
【請求項６】
前記支持部に、前記開閉機構の可動及び前記位置調整移動を行うためのハンドルを配設した請求項２に記載のインクジェットプリンタ。
【請求項７】
前記用紙押えはローレットビスにより前記支持部に支持された請求項１に記載のインクジェットプリンタ。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
上記目的を達成するために、本願発明（請求項１）は、媒体幅の異なる描画媒体（２）に対して描画ヘッド（４１）により描画を行うインクジェットプリンタにおいて、次の構成を含むことを特徴としている。
前記描画媒体（２）が搬送されるプラテン（３１）に設けた複数の吸気穴（３２）に対して、前記描画媒体（２）の両外側に位置する吸気穴（３２）を前記プラテン（３１）上方から塞ぐ一対のフィルム状の用紙押え（３４）。
前記描画媒体（２）の幅方向に移動可能とし、前記吸気穴（３２）の一部を前記プラテン（３１）下方から塞ぐ前記描画媒体（２）の搬送方向に長尺状となる一対の穴塞ぎ部材（３５）。
前記幅方向への位置調整移動を可能なように前記用紙押え（３４）を支持する支持部（１００）。
前記支持部（１００）の前記幅方向の移動に連動し、前記穴塞ぎ部材（３５）幅方向の移動による位置調整を行うリンク機構（第１連結部１２５）。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
請求項６は、請求項２のインクジェットプリンタにおいて、
前記支持部（１００）に、前記開閉機構の可動及び前記位置調整移動を行うためのハンドル（１１３）を配設したことを特徴としている。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
印字部３０の背面下部にはメンテナンス部４５が設けられており、描画ヘッド４１が描画動作していない待機状態で描画ヘッド４１のインク吐出面の乾燥を防止するためにインク吐出面を密閉したり、描画ヘッド４１のクリーニング時に排出されたインクを受けたりするキャップ部（不図示）を有している。
また、描画ヘッド４１のクリーニング時にインクを排出後、インク吐出面に残ったインクを除去するためのワイパブレード（不図示）を備え、描画ヘッド４１からのインクの安定した吐出を可能としている。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５３】
すなわち、ハンドル１１３を押し下げることで、一方の支持部１００が傾斜して段付きボルト１０３の段部（軸）１０３ａを中心に回動して跳ね上げ動作が行われると、回動が第２連結部１４０を介して第２可動軸１３０の幅方向の直線移動に変換され、第２可動軸

１３０の移動がラック及びピニオンを介して他方の第２可動軸１３０を移動させ、他方の支持部１００の位置が同じ原理で回動して跳ね上げ動作（開閉）する。

支持部１００について、幅狭な描画媒体に対して跳ね上げ動作を行った例が図１４、幅広な描画媒体に対して跳ね上げ動作を行った例が図１５である。